

令和6年度 岐阜県プラスチック資源循環推進懇談会【議事概要】

1 日 時 令和7年2月27日（木）10：00～11：10

2 場 所 OKBふれあい会館 406会議室

3 出席者

田中委員、デュアー貴子委員、宮田委員

発表者 東海学院大学 管理栄養学科 学生（2名）

4 事務局

山内廃棄物対策課長、牛島資源循環推進監、

中井課長補佐兼資源循環推進係長、安藤課長補佐

5 会議の概要

あいさつ、資料説明、意見交換

6 主な意見等

○令和6年度「環境配慮型プラスチック製品普及促進事業」について

- ・バイオマスプラスチックや生分解性プラスチックは一つの解決方法であり、それらの認知度向上に向けた普及啓発は有意義。併せて、プラスチックの重要性の啓発とともに、プラスチックごみについて「まずは捨てない」とか「汚れてるものを拾う」という意識醸成も非常に重要。
- ・プラスチック資源循環への関心が若い世代で高くなっているのを実感。
- ・環境配慮型プラスチックへの取組みについて、学校全体で取り組めるような活動も目指していきたい。

○これまでの「環境配慮型プラスチック製品普及促進事業」について

- ・プラごみ削減のために、ごみの分別する意識が非常に高いということがアンケート分析から分かり大変心強いと感じている。
- ・若い世代への啓発のためにも、各学校におけるごみの分別に力を入れるべきではないか。
- ・そもそもバイオマスプラスチック容器は普通の容器より価格が高いことが課題であると思う。

○令和7年度「環境配慮型プラスチック製品普及促進事業」の取組みについて

- ・清掃活動を経験して思うことは、マイバッグ持参等は自分ですぐできる取組み

ではないか。海外ではマイボトルが当たり前の状況であり、日本とは状況が全く違うことを実感。(学生)

- ・大学での授業等を通じ、環境にやさしいプラスチックがあることを知り、もっとみんなに広まるような活動が必要。(学生)
- ・ポイ捨てが一番問題である。環境配慮意識を高める施策ができれば一番いい。
- ・行政においては、プラスチックの分別の必要性について、適切に伝えるべき。
- ・近隣の小学校等との交流の機会があるため、環境問題等をテーマとし、例えば紙芝居などで伝えることを検討していきたい。
- ・ごみの分別により、その後どう資源が循環するかという点が、消費者に理解されれば「ちゃんと分別しなくては」という意識になるのではないか。
- ・資源に乏しい日本にあって、資源循環の重要性について、消費者が知ることが必要。